

巻頭言



福島県知事 内堀 雅雄

復興の新たなステージへ向けて

東日本大震災と原子力災害の発生から、この3月で5年が過ぎました。この間、国内外から多大なご支援をいただき、福島県民を代表して厚く御礼を申し上げます。

本県においては、今もなお数多くの県民の皆さんが避難生活を続け、廃炉・汚染水対策や被災者の生活再建、風評と風化の2つの逆風など課題が山積しており、復興はいまだ途上にあります。

その一方で、昨年は被災地におけるふたば未来学園高等学校の開校をはじめ、環境創造センターなど復興を支える拠点施設の整備の進展、さらには、県内観光地のにぎわいや文化・スポーツでの若者の活躍など、明るい光が着実に広がりを見せており、県内各地に笑顔が戻ってきていると感じております。

こうした取組を続ける中でも、海外での本県のイメージや安全性に対する風評は復興への大きな障害となっています。風評を払拭していくためには、正確な情報発信が極めて重要であり、国際会議や各種視察などの機会に福島に来ていただき、実際に見ていただくこと、インターネットなどのマスメディアを通じた発信、さらには県内在住外国人の人的ネットワークによる情報発信などに努めております。また、例えば私自身としましても、本年1月にスイスで開催された世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）へ出席し、復興・再生へ挑戦を続ける本県の今を世界に向けて発信しました。こうした機会を通じて得られた絆とネットワークを生かし、世界の方々の理解と応援の輪を広げてまいります。

国際交流に関しても、医療機器関連や再生可能エネルギー産業における国際的な協力関係や海外企業とのビジネス交流、放射線に関する国際機関との連携・協働などを着実に進めております。

また、福島がグローバルに注目されていることで、福島子どもたちが世界の方々と触れ合う機会が増え、自分たちは世界の中の日本、世界の中の福島なのだ実感しています。貴重な経験の中で、世界に恩返ししたいと考えている子どもたちもいます。県としても、文化、学術、スポーツなど、あらゆる分野と触れ合う機会を増やす施策に取り組んでいきたいと考えております。

福島の復興をさらに前に進めていくためのキーワードは「挑戦」です。さまざまな課題に果敢に「挑戦」を続け、「夢・希望・笑顔に満ちた“新生ふくしま”」を築いていく決意です。皆様におかれましても、今後一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。